東京外国語大学 国際関係研究所研究会

ブラジルの大統領選挙

ルーラの歴史的再選と米州諸国への影響

講師

きくち　ひろかず
菊池 啓一 氏

JETROアジア経済研究所
主任調査研究員

講師・司会

こんた　りょうへい
近田 亮平 氏

東京外国語大学 教授

2026

11/18 (水)

17:00-18:30 (90分)

オンライン形式 (Zoom)
一般公開・参加無料

申込先
r.konta@tufs.ac.jp
（近田宛）
11/18(水) 正午締切

主催
東京外国語大学 国際関係研究所
iir-office@tufs.ac.jp

www.tufs.ac.jp/common/fs/iir/

ブラジルでは10月4日に大統領選挙の1回目の投票が行われ、前大統領の息子であるフラヴィオ・ボルソナロ候補が1位、現職のルーラ大統領が2位となりました。そして、10月25日に両氏による決選投票が実施され、ルーラ大統領が逆転で勝利し、2027年1月から4回目の政権をスタートさせる予定となっています。

本研究会では、はじめに東京外国語大学の近田亮平が、軍政から民政に移行した1980年代から現在までのブラジルについて、主に国家としての変化を解説します。

次に、大統領選挙の実施期間中ブラジルに滞在されていた、JETROアジア経済研究所の菊池啓一先生をお迎えし、今回の選挙の動向と結果に加え、右派政権の誕生が続いていたラテンアメリカ諸国や米国への影響について、ラテンアメリカ政治学者の立場からお話しいただきます。

その後、参加者の皆さんとの質疑応答およびディスカッションを行う予定です。

研究会はオンラインによる一般公開のかたちで実施します。参加ご希望の方はお名前とご所属を明記の上、
11月18日（水）正午までに
近田（r.konta@tufs.ac.jp）
宛てにメールでお申し込み下さい。